

S U P E R
FORMULA

STAGE

superformula.net/sf2

2018 Vol.02

INDEX

- 2018 出場ドライバー紹介 ②③
- 今大会の見どころ ②
- 松田次生が語るコースガイド ③
- SHORT INTERVIEW ④
- チーム探訪 ここがウチの自慢です! ④
- インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION, INC.
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは —
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
https://superformula.net/sf2

JRP
Japan race promotion inc.

INTERVIEW NO.2

JMS P.MU/CERUMO・INGING ドライバー

石浦宏明

Hiroaki ISHIURA

「なぜ自分はいそここにいらないのか」。2012年、フォーミュラ・ニッポン(現スーパーフォーミュラ)のシートを失った石浦宏明。彼は、走るのも見るのも分析・研究するのも大好きという、根っからのレースマニアだ。国内外のビッグレースは、自分が出場していないものも含めて、欠かさずテレビで見てきた。だがシートを失ったその年、フォーミュラ・ニッポンだけではどうしてもチャンネルを合わせられない。こんな拒否反応を味わうのは、石浦にとって、初めての経験だった。

まだ若い恋人同士だった石浦の両親は、1970年代後半、富士スピードウェイで行われたF1を観戦。石浦自身も0歳児の頃から、両親に連れられて富士や筑波といったサーキットに来ていた。ひょっとしたら、生まれる前からレーシングカーのエンジン音を胎教のひとつとして聞いていたのかも知れない。幼稚園の卒業アルバムに、石浦はすでに「レーサーになる」と書いていたのだから。

だが、その道程は遠かった。モータースポーツ専門誌を読み漁り、「12歳からならレーシングカートに乗れるんだ!」と訴える宏明に、父は「勉強してある程度の中学に合格したら考える」と答えた。その言葉を信じて受験勉強に励んだ宏明は、中・高一貫校に合格。しかし、なかなかカートに乗せてもらうことは叶わない。サラリーマン家庭の石浦家にとって、レーシングカートにかかる金額は容易に捻出できるものではなかった。宏明が初めてカートに触れたのは高校2年になってから。ヤマハがレーシングカートのレンタルを始めたということで、父も宏明に走ることを許した。その宏明のタイムを見て、レンタルを行っていたカートショップの人たちがサーキットのシリーズ戦出場を促す。レンタルカートで出場した初レースは

ポール・トゥ・ウィン。続くレースでもレンタルカートで優勝し、賞品としてエンジンを手に入れる。そこでようやく父も一旦折れ、宏明のために数10万というカートのシャシーを買った。

それもつかの間。両親から大学に合格するまでは活動してはいけないと告げられる。そして1年間を受験勉強に費やし、大学に合格。再びカートに乗り始めた。高校時代、レース人生の計画を考えていた宏明の時計の針は、ここから急加速しなければならなかった。

全日本カートに出る資金はないが、出場資格は手に入れたい。4輪レースに出るには、スクールのスカラーシップも取らなければ……。その条件に合うもてぎのカートシリーズ戦に出場。タイトルを獲得しただけでなく、フォーミュラカーで練習を積むため、ザップスピードのオーディションに参加して、フルサポートドライバーとなる。そしてFTRS(フォーミュラトヨタ・レーシングスクール)を受験。だが結果は不合格。問題になったのは年齢だ。石浦はすでに21歳。カートで長く経験を積んだ10代半ばの若手たちにアドバンテージがあった。不合格を知った石浦は悔しがる。「速くても合格できないなんて!」。だが、立ち止

まっている暇はなかった。すぐにFTRSでもらったロガーのデータを持って、フォーミュラトヨタに出場できるチームを探した。この頃になると、息子の速さと必死さを認めた父が本気になり始める。スポンサー探しを手伝っただけでなく、自分の資産もすべて宏明のレースにつき込んだのだ。

そして3年目のフォーミュラトヨタ。シリーズ2位までに入ればF3出場のスカラーシップが得られたが石浦は3位に終わる。もう父にも宏明に出してやれる資金はわずかしか残っていなかった。

その金を握りしめ、石浦はこれまでお世話になった人たちの協力を仰いだ。中古のシャシー、エンジンを借り、岡山で行われたF3の開幕前テストに押しかけ参加。フォーミュラトヨタ3年目にお世話になったチームを初めとする人たちが、手弁当でクルマのメンテナンスをしてくれた。そこで総合3位のタイムを記録したことがきっかけとなり、F3デビューが叶う。同時に、3年前に落選したトヨタのスカラーシップ生待遇を獲得。そこから2年間のF3でも、石浦のシャシーやエンジンは最新ではなかった。だが、回りの人たちが『石浦を勝たせるために』とできる限りの後押ししてくれた。その気持ちに応えてきた石浦は、2008年

に国内最高峰のフォーミュラ・ニッポンに到達。ところが4年経ったところでシートを喪失したのだった。

それでもチャンスがあれば、F3に乗ったり、コーチをしたりと、フォーミュラカーに接する機会を作り始めた。サポートレースとしてF3がある時は、メインレースのフォーミュラ・ニッポンも観戦。セットアップ作業なども熱心に見ていたと言う。2013年のSUGO戦、そんな石浦に「何でお前、フォーミュラ・ニッポンに乗っていないんだ」と声を掛けられたのが、セルモ・インギングの佐藤正幸社長。翌年から「ウチのチームで走れ」と、石浦の復帰を決定づけた。チームのまとめ役としての任務も課せられた石浦は、ここで大きく開花。復帰2年目には、初優勝を果たしただけでなく、念願のチャンピオンを獲得し、日本の頂点に立った。そして、昨年2度目の戴冠。特に昨年は、「レースで決して諦めないことを知った」という。速さだけでなく、強さも身に付けた石浦の今の目標は、『日本の壁』になること。モチベーションがある限り、幾つになってもトップフォーミュラで走り続ける意気込みだ。

※インタビュー全編は後日公式ホームページに掲載いたします。

Series Partner **HONDA TOYOTA**

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY
RX0

ASAHI
SANKI-ICHI
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ

J SPORTS

2018 ENTRY LIST

全日本スーパーフォーミュラ選手権 エントリーリスト

Twitter Facebook Instagram ★ は今季スーパーフォーミュラ初参戦

JMS P.MU/CERUMO・INGING

ジェームス ピーエムユーセルモインギング

1 石浦宏明
Hiroaki ISHIURA
1981年4月23日生/東京都



JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14

RANKING 4 POINTS 5

昨シーズンのチャンピオン。2年ぶり2度目の王者となった。昨年の第3戦では現役最年長の36歳で優勝を達成と、円熟の域に達している。

<https://ameblo.jp/ishiura/>



2 国本雄資
Yuji KUNIMOTO
1990年9月12日生/神奈川県



JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14

RANKING — POINTS 0

2016年に初優勝を含む2勝を挙げて王座に就いた現役では最年少のチャンピオン。昨年は第3戦富士で初のポールポジションを獲得した。

<http://yujiikumoto.com>



KONDO RACING

コンドー レーシング

3 ニック・キャシディ
Nick CASSIDY
1994年8月19日生/ニュージーランド



ORIENTALBIO KONDO SF14

RANKING 7 POINTS 2

昨年スーパーフォーミュラにデビューし、第2戦岡山のレース1で3位入賞、第6戦SUGOではPP獲得と活躍。自身の初優勝を挙げられるか。

<https://twitter.com/nickcassidy>



4 山下健太
Kenta YAMASHITA
1995年8月3日生/千葉県



ORIENTALBIO KONDO SF14

RANKING — POINTS 0

2016年に全日本F3チャンピオンとなり、昨年スーパーフォーミュラに進級。3度の入賞を果たし、第4戦もてぎではポールポジションを獲得した。

<http://kentayamashita.jp>



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

ドコモチームダンディライアンレーシング

5 野尻智紀
Tomoki NOJIRI
1989年9月15日生/茨城県



DOCOMO DANDELION M55 SF14

RANKING 3 POINTS 6

デビューした2014年にいきなり優勝を果たし、一躍注目の存在に。昨年の第5戦オートボリスではポールポジション獲得と速さは一級だ。

https://twitter.com/tomoki_nojiri



6 松下信治 ★
Nobuharu MATSUSHITA
1993年10月13日生/埼玉県



DOCOMO DANDELION M6Y SF14

RANKING — POINTS 0

2015年からF1直下のGP2（17年にF2と改称）で活動。今シーズン、スーパーフォーミュラにデビューした期待の若手で、その実力が注目される。

<https://www.nobuharu.com>



UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

ウオム スノコチーム ルマン

7 トム・ディルマン ★
Tom DILLMANN
1989年4月6日生/フランス



UOMO SUNOCO SF14

RANKING — POINTS —

レギュラードライバーのピエトロ・フィッティパルディがインディカーシリーズに出場のため、今回初出場。今季は世界耐久選手権とフォーミュラEに参戦予定。

<https://www.facebook.com/tomdillmannofficial/>



8 大嶋和也
Kazuya OSHIMA
1987年4月30日生/群馬県



UOMO SUNOCO SF14

RANKING — POINTS 0

昨年、古巣となるチームルマンから5年ぶりにスーパーフォーミュラに復帰。第5戦オートボリスで3位入賞と、名門チーム復活に全力で挑む。

https://twitter.com/oshima_kazuya



TEAM MUGEN

チーム・ムゲン

15 阪口晴南 ★
Sena SAKAGUCHI
1999年7月9日生/大阪府



TEAM MUGEN SF14

RANKING — POINTS —

カートからスーパーFJを経て、2016年からF3に参戦中。F2に参戦するレギュラードライバーの福住仁嶺に代わり、今回スーパーフォーミュラに初出場。

<http://sena-s.net>



ここに注目!



第2戦 オートボリスの見どころ

ソフトタイヤで思い切った作戦に出るチームはあるか?

昨年まで秋口に開催されていたオートボリス戦が、今季はカレンダーに変更があり、5月に行われることになった。4月から夏のような陽気が続いているが、この時期としてはもちろん平年より暑い。こうした天候がレースにどのような影響を及ぼすのか気になるポイントのひとつだ。また今大会では、レギュラードライバーのピエトロ・フィッティパルディと福住仁嶺が他シリーズとの日程重複で欠場。代わりに出場するルーキーのトム・ディルマンと阪口晴南が、ひょっとしたらレースをかき回す要素のひとつとなるかも知れない。

そのオートボリスでは、今季も事前テストは行われていない。つまり今年投入された新スペックのソフトタイヤに関するオートボリスでのデータは、どのチームも持っていないというこ

とだ。今年は全レースの決勝で、ミディアムとソフト、両スペックのタイヤを使用することが義務付けられており、その中で鍵を握るのは横浜ゴムが敢えて『去年よりも持たない』ことを考えて作ったソフトタイヤ。決勝ではペースダウンすることなく、そのソフトタイヤをどれだけ長く持たせられるかが勝敗を分けると言ってもいいだろう。特にオートボリスは、タイヤへの攻撃性が高いと言われているだけに重要なポイントだ。

その確認作業が行われるのはレースウィークに入ってから。金曜日の専有走行からデータ取りをするチームも現れそうだが、中でも注目なのはUOMO SUNOCO TEAM LEMANSの大嶋和也。昨年、大嶋とチームメイトのフェリックス・ローゼンクヴィスト

は、早めのピットインからソフトタイヤでレースの大半を走り切り、揃って表彰台に立った。また、グリッド上で選ぶスタート用のタイヤにも注視が必要。グリッド上位のドライバーたちはミディアムを選ぶのがセオリーだが、そこでライバルたちの裏をかいてソフトを選び、スタートダッシュを決めるドライバーは出てくるのか。昨年はピエール・ガスリーがスタートでソフトを選び、その決断を優勝につなげた。

予選では、開幕戦同様、ホンダ勢が速さを見せるのか、トヨタ勢が巻き返すのかも気になるところ。ただし、上位グリッドを獲得しても、決勝では大きな順位変化の可能性もある。今回も開幕戦と同様、速さと強さが問われる1戦となるだろう。



昨年のオートボリス戦では、ソフトタイヤでスタートダッシュを決めたガスリーが優勝。早めのピットインで残りのレース大半をソフトタイヤで走りきったチーム ルマンの2台が表彰台を獲得（上）。ソフトタイヤ（右）の使い方が大きなカギだ。

Team Pit — ピット割り

◀◀ 第1コーナー (40R)

46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32		31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
		1/2		JSB	JSB	JSB	15/16		JSB	JSB	JSB	36/37				7/8		JSB	JSB	19/20		JSB	JSB	18		JSB	JSB	3/4		JSB	JSB		5/6		JSB	JSB	17			JSB	JSB	64/65		JSB	JSB	50		JSB	JSB

Starting Grid — スターティンググリッド

自分でGrid表を完成させよう!

1	No.	3	No.	5	No.	7	No.	9	No.	11	No.	13	No.	15	No.	17	No.	19	No.
2	No.	4	No.	6	No.	8	No.	10	No.	12	No.	14	No.	16	No.	18	No.		

16 山本尚貴
Naoki YAMAMOTO
1988年7月11日生／栃木県



RANKING 1 POINTS 11

2013年のチャンピオン。ホンダ勢の中心的存在で、昨年こそ優勝もポールポジションもなかったが、今季は開幕戦をポール・トゥ・ウィンで制した。

<http://www.naoki-yamamoto.com>

REAL RACING

リアル レーシング

17 塚越広大
Koudai TSUKAKOSHI
1986年11月20日生／栃木県



REAL SF14

RANKING 6 POINTS 3

2012年にチャンピオンを争い、惜しくも2位に。翌13年から現チームに移り、今年で6年目のシーズン。チームに初優勝をもたらすことができるか。

<http://www.tsukakoshikoudai.net/>

carrozzeria Team KCMG

カロツェリア チーム ケーシーエムジー

18 小林可夢偉
Kamui KOBAYASHI
1986年9月13日生／兵庫県



KCMG Elyse SF14

RANKING — POINTS 0

F1で活躍後、2015年にスーパーフォーミュラへ。昨年は第4戦のもてぎで優勝目前の2位を獲得し、今年こそ初優勝の期待がかかる。

<http://www.kamui-kobayashi.com/>

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL

イトウチュウエネクス チーム インパル

19 関口雄飛
Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日生／東京都



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14

RANKING 2 POINTS 8

2016年にスーパーフォーミュラにデビューするなり、その年に2勝し、昨年も2勝とこの2年間は最多の勝利を誇る。目指すは初のチャンピオン獲得だ。

<https://twitter.com/yuhisekiguchi>

20 平川 亮
Ryo HIRAKAWA
1994年3月7日生／広島県



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14

RANKING — POINTS 0

2013年にスーパーフォーミュラにデビュー。16、17年はスポーツカーやGTレースで活躍し、昨年スーパーGTで王者に。今年3年ぶりにスーパーフォーミュラに復帰。

<https://twitter.com/ryohirakawa>



松田次生が語る
オートポリスガイド

▶ ライン取りの違いがはっきりと出やすいので、そこに注目

オートポリスは比較的オールドタイプのコースでランオフエリアがなく、コースアウトしたら即グラベルなのでドライバーにとっては余りリスクを取れないサーキットです。2～3年前、路面の張り替えがありましたが、年を追うごとにパンピーになってきていて、路面自体も枯れてきているのでタイヤへの攻撃性は高いです。レイアウト的にも曲がって止めてと言うのではなく、長いコーナーが多いのでタイヤの摩耗が大きいです。

1コーナー（①）は結構下っているの、ブレーキで奥に突っ込み過ぎるとクリップに着けないことがあります。2コーナー（②）まで距離もあるので、ここはしっかり立ち上がり重視で走るのがセオリーですね。

2コーナーから第1ヘアピン（⑤）までは難しい。少しストレートっぽい2コーナーから3コーナー（③）を曲がった後、4コーナー（④）が長い左コーナーになっているんですけど、アプローチが悪いと第1ヘアピンの立ち上がりに影響するんですね。だから、あそこは鈴鹿のS字みたいに走行ラインをしっかり組み立てないといけない。2～

3コーナーは車速を上げ過ぎると走行ラインがズレちゃうので、どの車速がオイシイかを見つけるのが難しいんですよ。

第1ヘアピンはコーナーのRが長く、ステアリングを切りながらの立ち上がりなのでトラクションをうまくかけないとずっと滑ったままになってしまう。脱出が難しいですね。エイペックス（頂点）を奥に取る人もいれば、手前に取って小回りする人もいてドライビングに違いが出る場所です。

その先の100R（⑥）も結構跳ねますし、アウト側ギリギリまで行くと、グラベルに乗ってイン巻きスピンしてしまう。攻め過ぎると危ないポイントです。でも、攻めないとその先のスピードが伸びないですし、ホントにオートポリスはドライバーの精度を試されるコーナーが多いんですよ。

その先の第2ヘアピン（⑦）は、尾根みたいになっている前が見えず、クリッピングポイントが意外と分かりにくい。ただ、尾根みたいな所をうまく使えと小さく回れます。だから、アウト・イン・アウトというより、早めにインについて立ち上がり重視です。100Rの出口で前のクルマが

VANTELIN TEAM TOM'S

バンデリン チーム トムス

36 中嶋一貴
Kazuki NAKAJIMA
1985年1月11日生／愛知県



VANTELIN KOWA TOM'S SF14

RANKING 8 POINTS 1

2012、14年のチャンピオン。父はナカジマレーシングの中嶋悟監督で、親子共々F1で活躍した実績をもつ。自身3度目のチャンピオン獲得を目指す。

<http://www.kazuki-nakajima.com/>

37 ジェームス・ロシター
James ROSSITER
1983年8月25日生／イギリス



VANTELIN KOWA TOM'S SF14

RANKING — POINTS 0

今季2年ぶりにスーパーフォーミュラへ復帰。2013年にデビューした時と同じ強豪チームからの参戦で、タイトル争いに加わるか注目される。

<http://twitter.com/rossiterracing>

B-Max Racing team

ビーマックス・レーシング・チーム

50 千代勝正 ★
Katsumasa CHIYO
1986年12月9日生／東京都



B-Max Racing SF14

RANKING — POINTS 0

今年スーパーフォーミュラにデビュー。これまではGTレースで主に活躍し、ブランパン耐久シリーズでは日本人初のシリーズ王者に輝いている。

<http://www.chiyo-katsumasa.com/>

TCS NAKAJIMA RACING

ティーシーエス・ナカジマレーシング

64 ナレイン・カーティケヤン
Narain KARTHIKEYAN
1977年1月14日生／インド



TCS NAKAJIMA RACING SF14

RANKING — POINTS 0

2001年にフォーミュラ・ニッポンに参戦。その後F1で戦い、14年から再びスーパーフォーミュラに。今年41歳の現役最年長ドライバーである。

<https://twitter.com/narainracing>

65 伊沢拓也
Takuya IZAWA
1984年6月1日生／東京都



TCS NAKAJIMA RACING SF14

RANKING 5 POINTS 4

2012年にタイトル争いを演じ、ランキング3位。14年にはGP2に参戦した。15年から再びスーパーフォーミュラにフル参戦し、今年チームを移籍した。

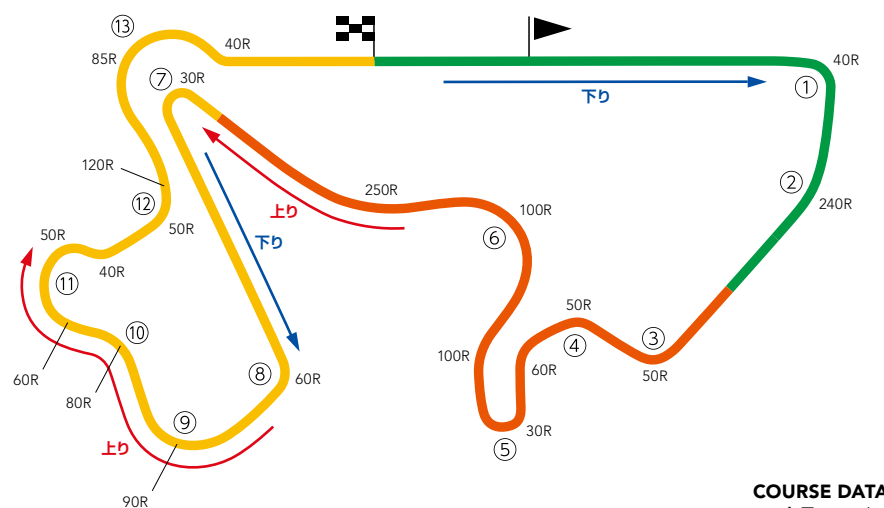
<http://www.takuya-izawa.com/>

ミスしたら、オーバーテイクしやすいポイントでもあります。ただ、無理して抜きに行くと、イン側の路面が良くないので、止まり切れないというシーンもよく目にします。

そこからストレートを下り切った、60Rの右コーナー（⑥）は、クルマが決まっていたら楽しい場所。でも、下り切ったところで路面が平らになるので、ボトムが当たるんですよ。当たってグリップをなくすことが結構あって、そのままコースアウトというパターンもありますね。その先の90Rの右コーナー（⑨）も、人によってライン取りが違います。もうひとつ先の左の80Rコーナー（⑩）のラインを考えて、小さく曲がる人もいますし、大きくアプローチする人もいます。左の

80Rは、ある程度小さく曲がって、右の複合コーナー（⑪）に入っていくという感じ。その複合コーナーも、上った後に平らになる部分があって、一瞬クルマが浮いたような状態になり、トラクションがふっと抜けることがあります。そうならないようなアクセルコントロールが要求されますし、そこからの左の高速コーナー（⑫）でいかにアンダーステアを出さないかが重要。

あとは最終コーナー（⑬）ですが、あそこも小さく回ると、クリップを奥に取ってストレートを伸ばす人がいます。オートポリスはドライバーによって、クルマの仕上がり具合によって、全然ライン取りが違ってくるので、そういう点にも注目して見てもらいたいですね。



COURSE DATA

全長：4.674km

コースレコード：1'26.196 野尻智紀 (DOCOMO DANDELION M40S SF14) 2017.9.9

過去3年の結果（優勝者／PP）

2017	P.ガスリー (TEAM MUGEN SF14)	野尻智紀 (DOCOMO DANDELION M40S SF14)	2016	未開催	2015	中嶋一貴 (PETRONAS TOM'S SF14)	石浦宏明 (P.M.U./CERUMO-INGING SF14)
------	-----------------------------	--------------------------------------	------	-----	------	-------------------------------	-------------------------------------

松下信治 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)

不安要素はゼロ

スーパーフォーミュラにおいては確かにルーキーになるのですが、ルーキーかどうかはどうでもいいことです。ルーキーといえる年齢（24歳）でもないし、言ってもいられない。僕自身そういう感覚がなく、思うことはありません。今シーズンの目標も、シリーズチャンピオンです。言うならば“ニューフェイス”ですね。

これまでスーパーフォーミュラには、ベテランドライバーが多いというイメージを持っていました。戦うコースも毎年同じところだし、タイヤに関しても知り尽くしている人が多いだろうなと。なので、そういう点に対して僕自身のディスアドバンテージになるのかと思っていました。ですが、

コースに関しては僕も知っているの、あとはタイヤに慣れれば……という思いで公式テストに挑んだんです。そしたら上手くいったので、開幕戦を迎えるまでにそういった不安要素はゼロになりました。距離も長いので長い時間集中するトレーニングも重ねるなど、やらないといけないことはあったし、知らないといけない情報ももう知っている。そういう意味での準備はできているし、万全な状態だと思っています。

自分ができることをキチンとやる

当たり前のことでもありますが、つまらないミスをせず、自分ができであろうことをキチンとやる。それができれば、ちゃんといい結果がついてくる。今までそういうやり方をやってきました。

確かにスーパーフォーミュラは、F2（FIAフォーミュラ2選手権）と全然クルマが違ってダウンフォースが大きく、特にコーナーでのタイヤのグリップもすごい。そのことには驚きましたが、パワステがついているからハンドルは重たくないし。戦うにあたってのキープポイントはやっぱり予選だと思います。そもそも（各車のタイム）差が少ないのでちょっと頑張れば上に行けるし、ちょっとのミスでも下に行ってしまう。決勝を考えても予選のポジションが結構大事になるようだし……。まあ、これはどのレースでも当たり前ですけどね。

周りの声は、全然気にしない

周りから期待してもらえるのはとてもありがたいこと。でもそれに対してのプレッシャーだとか、周りの声はまったく気にしていません。僕自身、F1にチャレンジしたいということはHondaさんも含めて知っていること。なので、その中で僕がどのようにやっていけるかどうか、ですから。そのために目の前の自分の仕事を100%やり切る



だけです。今、F1に行けるかもしれない、というチャンスの中にいることは間違いないし、与えられたそのチャンスをどうするかも自分次第だと思います。確かに、F1へ行けるかどうかという点でプレッシャーを感じていない、と言えば嘘になりますね。なので、チャレンジしているという点では、ある意味（プレッシャーが）あった方が気持ちいいかもしれません。



観戦中の情報収集は

レースの状況を把握するなら……
公式アプリ

順位、ラップタイム、セクタータイム、位置情報などがひと目でわかる無料アプリ。場内放送も聞けて非常に便利！

<http://superformula.racelive.jp/>

リザルトやコメントを見るなら……
オフィシャルサイト

走行結果やインタビュー、その他リリースなど。随時最新情報を掲載！
<https://superformula.net/sf2>

リアルタイムな情報収集には……

Twitter

SUPER FORMULA公式アカウント

@super_formula

TOYOTA GAZOO Racing

@toyota_gr

HondaモータースポーツLive

@hondajp_live

公式ハッシュタグは「#sfformula」

記事やダイジェスト動画は……

●Facebook

スーパーフォーミュラオフィシャルfacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

YouTube

YouTube公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>



お求めは
場内売店か
公式サイトへ！

SUPER FORMULA OFFICIAL SHOP

全日本スーパーフォーミュラ選手権
2017総集編DVD発売中！

世界が注目するドライバー達が集結。国内トップフォーミュラ激動の1年間を振り返る決定版！ 2017年シリーズ全7戦のダイジェスト（レース中継+オンボード映像+インタビュー）を収録。

価格：5,400円（税込）

AUTOPOLIS
SUPER 2&4 RACE
公式プログラム販売中

メインスタンド裏イベント広場内
APオフィシャルブースおよびコン
トロールタワー1Fで販売しています。

価格：1,000円（税込）



CLUB F
SUPER FORMULA
OFFICIAL FAN CLUB

オフィシャルファンクラブ CLUB F
新規会員受付中！

豪華入会特典やチケット販売など、ファンクラブならではのサービスを予定！ 詳しくはオフィシャルサイト
(<https://superformula.net/sf2>) 内のファンクラブページをご覧ください

チーム探訪 〰️ ここがうちの自慢です！

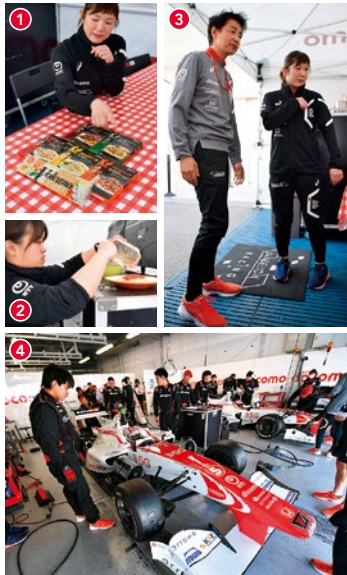
その2 | DOCOMO TEAM DANDELION RACING

大型ルーキーの参戦で盛り上がる今シーズンのスーパーフォーミュラ。チーム自慢を紹介するこのコーナー第2回目は、チームドライバーにニューカマーの松下信治選手を迎え入れたDOCOMO TEAM DANDELION RACINGのアシスタントマネージャー田中敦子さんに自慢ポイントを伺いました。

まず最初に見せてくれたのは、ドライバーのお昼ごはん。「日本製麻株式会社さんから協賛していただいているボルカノパスタとパスタソースを使って用意しています（①②）。ドライバーから食べたい時間を聞いてパスタを茹でて、準備しています」という。タンパク質を含む貴重なエネルギー源として優れた食材であるパスタだが、チームとして「かれこれ5年近くパスタを用意していますが、ドライバーからは好評」なのだから。「野尻（智紀）選手はもっぱらアマトリチャーナ。チームに来てからずーっとこれです（笑）。松下（信治）選手はまだ好みかわからないですね」とドライバーによって好みが異なるのも、興味深い。次の自慢は、今シーズン新しくなったチームウェア（③）。

「株式会社井本運動具店さんからの協賛で、今年からアシックスのウェアと靴に変わりました。トレンドを意識して、イチオシのウェアを提供していただいています。最新のデザインと機能が兼ね備えられているものですね。スリムにも見えるし、オシャレでカッコいいでしょう？」とニコリ。タイト目なデザインは、作業するにもラクとのこと。「メインの色がモノクロになったぶん、DANDELION RACINGのカラーである赤がもっと目立つ感じになりました。靴は男性と女性で色が違うし、フィット感もいいです」。ファッションブルなウェアは、チームスタッフのモチベーションアップにもつながっているという。

そして、チームとしてなによりの自慢なのが、スポンサーである株式会社NTTドコモ（④）。「代表の村岡（潔）が会社を設立したときからのスポンサーです。メインスポンサーが変わらない、というのはすごいことだと思います。加えて、チームスタッフも基本的に入れ替わりがないですね。田中さん自身、チームで仕事をするようになり10年が過ぎたと言うが、「チームの総合力を考えると、とても大事なこと。雰囲気もすごくいいし、安定したパフォーマンスを出せることにつながるだけに、チームとして大きな自慢です」。



TV放映／映像配信

BSフジ 決勝戦生中継

『2018スーパーフォーミュラ第2戦オートポリス』

ビエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫した状況をレーシングドライバー 松田次生と、東（ひがし）美樹がピットからレポートします。今シーズンは、解説者に鈴木亜久里、古賀敬介（モータージャーナリスト）を大会ごとに迎えて、鋭くまたわかりやすく解説をします。

○放送時間：5月13日（日）午後2時00分～3時55分

BSフジ

『スーパーフォーミュラ GO ON!』



今シーズンから、「スーパーフォーミュラ」の情報を完全網羅する番組としてリニューアル。SF14ラストイヤー、全戦2スベックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズン。そのレースダイジェストをレギュラーコメンテーターの小林可夢偉と解説の松田次生が徹底分析。また、ゲストコメンテーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りする。番組の進行役は本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。

○放送時間：第2回 5月14日（月）午前2時00分～2時55分（再放送）

第3回 5月21日（月）午前2時00分～2時55分

J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組も放送します。

○放送時間：5月12日（土）午後3時40分～予選生中継
5月13日（日）午後1時40分～決勝生中継



J SPORTS 2

J SPORTS 2

GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>



TIME SCHEDULE タイムスケジュール

RACE	レース
5月12日(土)	
8:40- 9:00	N-ONE 予選
9:20- 9:40	JP250 予選
10:00-11:00	SUPER FORMULA フリー走行
11:15-12:00	ビットウォーク
12:35-	N-ONE 決勝 [7Laps]
13:40-	JP250 決勝 [12Laps]
14:25-15:05	JSB1000 予選 (Q1)
15:15-15:25	JSB1000 予選 (Q2)
15:50-16:10	SUPER FORMULA 公式予選 (Q1)
16:20-16:27	SUPER FORMULA 公式予選 (Q2)
16:37-16:44	SUPER FORMULA 公式予選 (Q3)
17:10-17:40	キッズビットウォーク

5月13日(日)	
8:10- 8:25	JSB1000 フリー走行
9:50-10:25	SUPER FORMULA フリー走行
10:45-11:30	ビットウォーク
12:10-	JSB1000 決勝 [20Laps]
14:10-	SUPER FORMULA 決勝 [54Laps]

EVENT	イベント
5月12日(土)	
8:30～ 8:40	オープニングステージ MC:水村リア
9:40～10:00	オートポリスサーキットクイーンステージ MC:水村リア
11:00～11:15	JSB1000ライダー トークショー ゲスト:高橋巧選手、中須賀克行選手、津田拓也選手、渡辺一馬選手
11:20～11:30	SFピキナーズトーク ゲスト:東美樹 MC:水村リア
11:55～12:10	SF予選直前トーク ゲスト:浅見理美 MC:水村リア
12:35～12:55	SFドライバートーク ゲスト:塚越広大選手、関口雄飛選手 MC:水村リア
13:20～13:55	復興支援赤十字オークション MC:水村リア
16:00～16:30	レースクイーンステージ MC:水村リア
17:00～17:20	テクノロジーラボラトリー 両角岳彦、浅見理美、スペシャルゲスト(オープニングMC:水村リア)

5月13日(日)	
8:30～ 8:45	オープニングステージ MC:水村リア
8:45～ 9:00	オートポリスサーキットクイーンステージ MC:水村リア
9:45～10:25	レースクイーンステージ MC:水村リア
10:30～11:00	復興支援赤十字オークション MC:水村リア
11:30～11:40	SF決勝直前トーク ゲスト:浅見理美 MC:水村リア
12:00～12:15	SFポールポジションドライバートーク ポールポジション獲得ドライバー MC:水村リア
16:00～16:20	テクノロジーラボラトリー 優勝エンジニア、両角岳彦、浅見理美(オープニングMC:水村リア)
16:30～16:45	SF優勝ドライバートーク ゲスト:優勝ドライバー MC:ビエール北川

※スケジュール、内容、出演者等は予告なく変更、中止になる場合があります。